



# 栄小学校だより

令和5年6月20日(火)

No.14

## 〇ふれあい班活動が始まりました。

6月14日(水)の5限目に「第1回ふれあい班活動」を行いました。

このふれあい班は、「縦割り班」とも言い、1年～6年の各学年が2人ずつ程度集まり様々な活動を通して、「異学年交流」をして、「教え、教えられて」ともに成長することを目的としたものです。

令和5年度も第1回の活動を行いました。6年生が中心となって、自己紹介やクイズ・ゲーム等をしてみんなで打ち解けていました。最初は、知らない人の中で戸惑っていた児童もいたようですが、そこは、栄小の子どもたちです。6年生や5年生が班員を大切に優しく声掛けをしてくれました。活動を通して、みんな仲良くなっていきました。

今後は様々な計画をして、活動をしていきます。第2回活動は、6月21日(水)の5限目に「ふれあい班環境整備」として運動場の草取り等を行う予定です。



## 〇天栄中学校区あいさつ運動

6月13日(火)の朝、天栄中学校区あいさつ運動を栄小学校正門で実施しました。

これは、学期に1回、天栄中の生徒と栄小の児童が合同で朝のあいさつ運動をするものです。天栄中学校区の小中連携事業の一つとして行っています。他の校区小学校でも行っています。天栄中からは、栄小を卒業した7～8名の生徒が来てくれました。

みんな、大きな声と明るい笑顔で挨拶運動ができたと思います。天栄中のみなさん！ありがとうございました。

# ○読み聞かせ活動デー

6月15日(木)の朝の会は、全校で「読み聞かせ活動」を行いました。

1年生から6年生まで各教室で、読み手は、1年生はボランティアさん、2年生～6年生は、先生たちが担任以外のクラスで行いました。

いつもと違う環境の中での読み聞かせ活動でしたが、どのクラスも読み手の持つ絵本等に目を輝かせながら集中していました。

栄小学校では、すべての教職員がすべての児童をみんなで育てる方針で様々な活動を行っています。今年度は、このような活動も積極的に取り入れていきたいと思えます。



## ☆特集 保護者に向けた 「親塾シリーズ3」

### よく笑う子ほど才能が開花する理由

起業家として活躍中している人たちの共通点は「明るくてよく笑う」ということです。ここでは、笑いの意味や効能などについて、茂木健一郎先生の著書の一部を抜粋編集して特集をします。

人間の子どもは、他の動物に比べて未熟な状態で生まれてくるので、大人になるまでに学ばなければいけないことがたくさんあります。毎日、緊張と不安にさらされますが、それを乗り越えなければ成長できません。

そこで、「笑い」が必要となるそうです。新しいことへの挑戦には失敗がつきもの。そこで「ハハっ、失敗しちゃった！」と笑い飛ばせれば前向きに生きるエネルギーが生まれ、失敗を糧にすることもできます。

つまり、「笑い」が多ければ多いほどかしこくなり、可能性も無限大に広がり、楽しい人生を送れるようになるのです。

では、どうすれば前向きでよく笑う子になるのでしょうか。

それには、失敗したときに逃げ込める、あるいは欠点まで含めて自分をまるごと受けとめてくれる安全基地が必要です。「ここなら安全」という場所があってこそ失敗を笑い飛ばすことができ、困難に立ち向かうときも「失敗したって、あそこに戻れば大丈夫」と、リスクをとることができるからです。

そんな「子どもの安全基地」になれるのは、もちろん親です。小さい子は、「親が、いつ何があっても自分を受けとめてくれる」とわかっていれば、どんどん新しいことにチャレンジしていけます。

たとえ失敗しても、親が笑顔で受けとめてくれたら、「自分がんばっている」「次はできる」と前向きに考えることができます。